

著者は小アジアの諸教会の人々について二つのことを祈っています。

まず、16～17 節です。「あなたがたの内なる人を強めて」(16 節)の直訳は「あなたがたを力づけて、内なる人へと至らせる」です。著者は聖霊の力によって私たちを力づけて「内なる人」へと至らせるように、と祈っています。「外なる人」とは生まれながらの自然の人間全体を言い、「内なる人」とは信仰によって根底から新しくされ、生き始めているキリスト者としての私たちのことです。私たちの信仰生活は私たちの知識や努力や力によって強められるものではなく、神さまの人間に対する信頼によって、導かれ、支えられ、強められるのです。聖霊の力によって私たちを力づけて「内なる人」へと至らせるということは、実は、神さまがキリストを私たちの心の中に住まわせることによって起こることなのです。私の中にキリストが住んでいるということを実感することは無いと思われそうですが、確かなことなのです。私たちは自分の思いや願いよりもキリストの心に適う者として生活したいと思い、そう願い、祈っています。

18～19 節の二つ目の祈りは諸教会の人々が、「無限の広がりを持つキリストの救い」を悟り、「人の知識をはるかに超えたキリストの愛」をはっきりと知るようになるように、と祈っています。信仰生活とはキリストと共に生きる生活です。私たちの信仰は観念的なもの、頭の中だけのものではありません。私たちは信仰生活の中で自らの愚かさ、心の頑なさをいよいよ知るのです。私たちは人生の歩みの中で、古い自分に死んで新しい自分に生まれ変わることをくり返し体験することを通して、成長させられ、「キリストの愛」、神さまの満ちあふれる豊かさと奥深さを深く知るに至るのではないのでしょうか。しかも、それを知れば知る程、キリストがどれほど私を愛しているのかを知るのです。そしてそれは 18 節に記されているように、自分だけが知るようになるのではなく、共に信仰の歩みをしている者が互いにこのキリストの愛の素晴らしさを知るようになっていくのです。

私たちはこの地上の歩みの中で、キリストの愛に基づいて信仰生活を過ごし、キリストの愛を知らされて成長していく中で、神の満ち満ちた全き豊かさの内に満たされるのです。神さまがキリストを自分の内に住まわせることによって、いつでも古い自分に死んで、新しく生まれ変わることができる、という可能性を信じればこそ、自分に諦めることもなく、また愛をもって他の人を信頼することもできるのではないのでしょうか。神さまは私たちの外で働いて願いに応じてくださる方でなく、私たちの内に働いて、私たちがキリストにあって祈り求めるところを私たちの思いを超えて成し遂げてくださる方なのです。